



PASONA Sustainability

パソナサステナビリティは、CO2排出量の可視化、省エネ診断、CO2削減対策、J-クレジット購入代行などの環境経営支援、人的資本開示や人事戦略コンサルティングなどの人的資本経営審などESG経営を支援する多様なサービスを展開しています。パソナグループのBPOサービスやコンサルティングのノウハウを活用し、企業の持続可能な成長をご支援します。

環境省「地域脱炭素化に向けた大学における環境人材育成の検討会」第3回 株式会社パソナサステナビリティ 資料



P A S O N A
Sustainability

2025年7月15日
株式会社パソナサステナビリティ
代表取締役社長
石田正則

①(株)パソナサステナビリティの概要・事業

②立命館大学 グリーンソーシャルイノベーターの共同研究の概要

③社会・企業で求められているスキルとの関連性

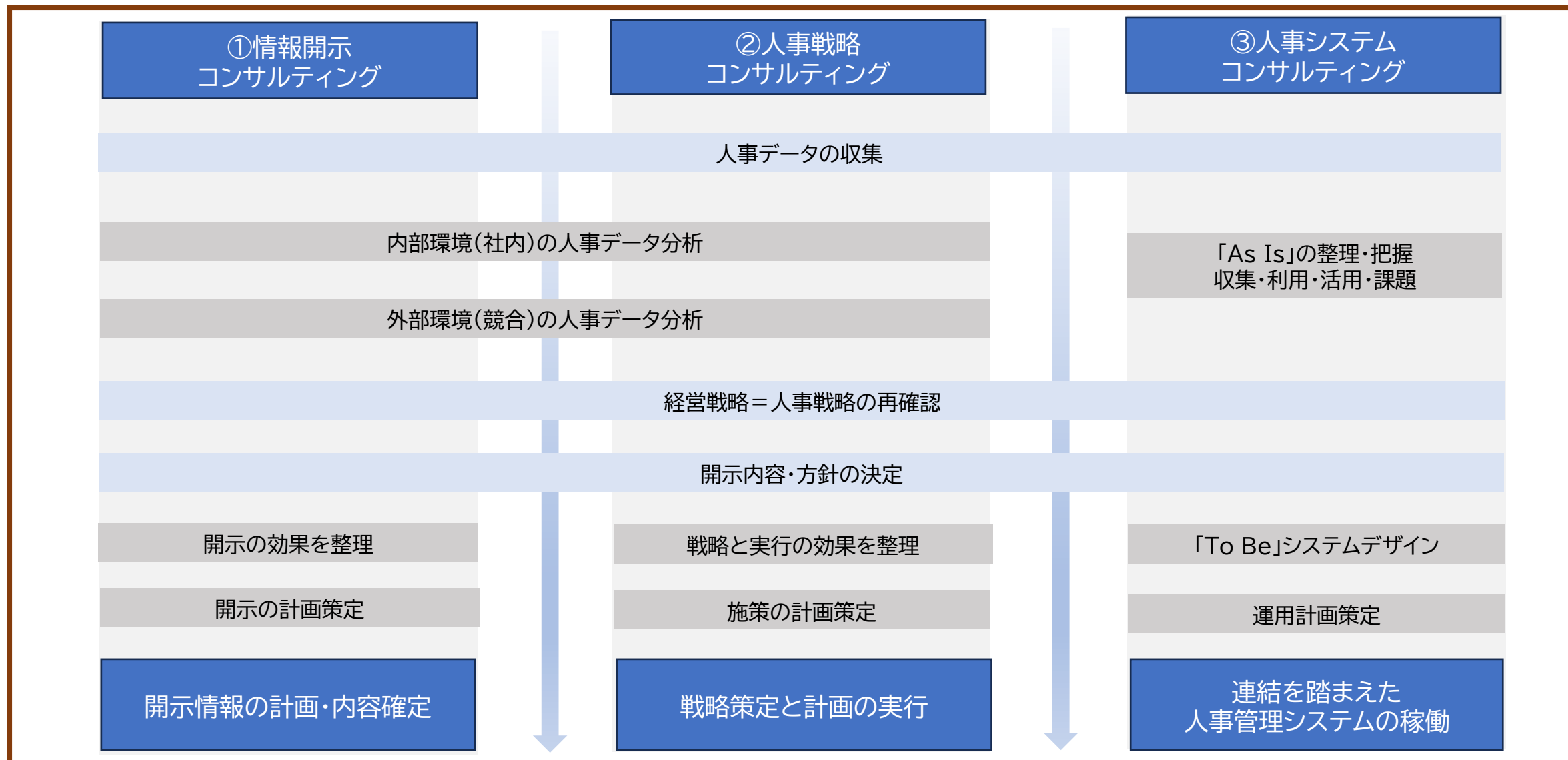
会社概要

会社名	株式会社パソナサステナビリティ
本社所在地	〒107-0062 東京都港区南青山3-1-30 PASONA SQUARE
設立	2025年2月3日
資本金	5,000万円
代表者	代表取締役社長 石田 正則
拠点	東京・大阪・淡路島
事業内容	・環境経営支援サービス ・人的資本経営支援サービス ・ESG教育, 自治体向け脱炭素推進支援
株主	株式会社パソナグループ

事業サービス

人的資本経営支援	①情報開示コンサルティング
	②人事戦略コンサルティング
	③人事システムコンサルティング
環境経営支援	①温暖化効果ガス排出量の算定
	②省エネ診断業務(工場・食品加工・ホテル)
	③環境インフラ支援(再エネ・空調・オフィスインフラ)
	④オフセット クレジット購入代行
パソナESGアカデミー	①概要 ・ESG・生物多様性・SDGs ・サーキュラーエコノミー・サステナビリティ
	②環境 Environment
	③社会 Social
	③ガバナンス Governance
	④ IR (GRIスタンダード)

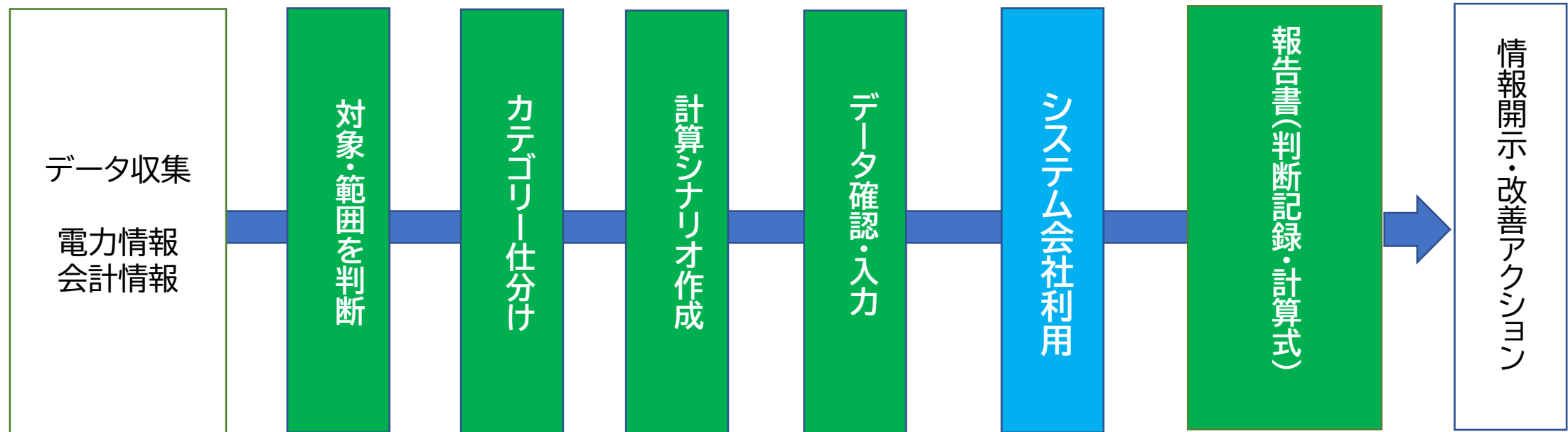
人事課題に合わせて分析・コンサルティング



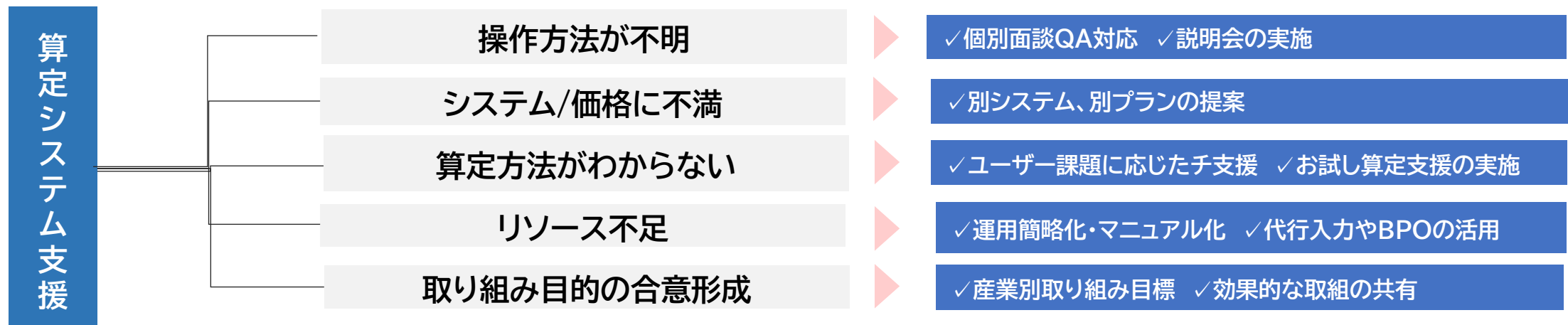
アウトカムへのつながりを分析・シナリオ作成

経営指標	ドライバー	施策分類	強化領域	人的資本テーマ	アクション	インプット(例)	アウトプット(例)	アウトカム(例)
売上高 営業利益率 営業利益 売上高	売上 総利益率	新規事業 売上高 UP	Work Force	動的な人財ポートフォリオの整備	注力分野強化に向けた採用	中途採用者数	新規事業数	新製品売上高比率
				人財育成	リスクリング	新規事業人件費		
						公募参画率		
		既存事業 売上高 UP		Succession強化	後継者候補の計画配置	幹部候補の準備度	リーダーシップに対する信頼	既存事業売上高
						次世代リーダー研修		
		共通 売上高 UP	Organi zation	動的な人財ポートフォリオの整備	柔軟な労働力確保	アルムナイ採用数	ポジション充足率	売上高
						定着率		
				人財育成	自律的キャリア形成支援	人財開発・研修費用	エンゲージメント スコア	営業利益/名
				企業文化の定着	企業理念・パーパス浸透	研修参加率		
				社内環境整備	DE&I	経営層の発信数		
					ウェルビーイング	男女間の賃金差異		
	売上高販売 管理費率	販管費率改善	Process	生産性向上	働き方の自由化	二次健康診断受診率	有休休暇取得率	
						テレワーク勤務率		
				業務効率化		採用コスト	ポジション充足率	営業利益/採用コスト

因果関係・相関関係を分析



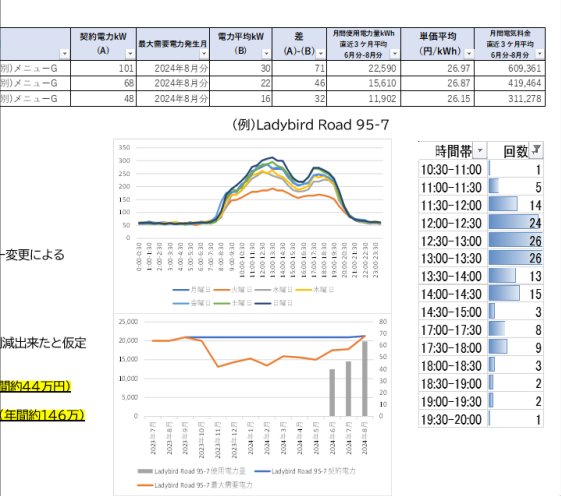
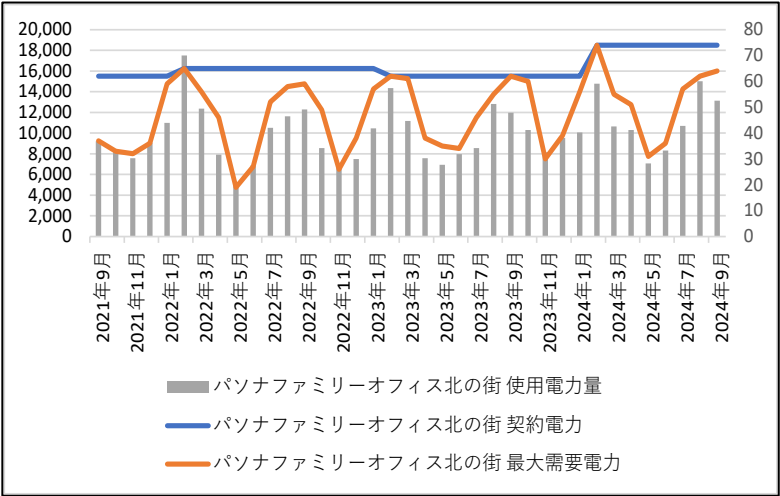
排出量算定BPOサービス・コンサルティング



電力データ収集・分析・コンサルティング



電力会社から直接データを収集



「省エネ診断」改善計画作成

省エネ診断
提案事項

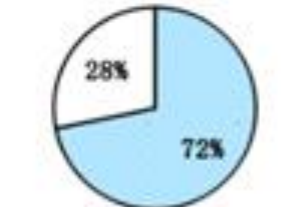
運用改善

- ・運用時間管理
- ・温度管理
- ・外気管理
- ・インバータ設定
- ・使用台数見直し

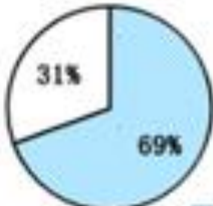
投資改善

- ・保温、断熱材追加
- ・照明切替
- ・空調再新化
- ・デマンド監視導入

エネルギー使用構成

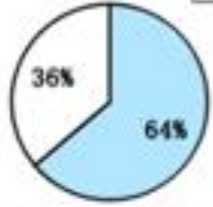


原油換算使用量割合



費用割合

■ 購入電力
□ 燃料・熱



CO₂排出量割合

省エネ提案

★ 提案No.1～3は投資不要で運用にて実施可能です。
提案No.4～10は投資回収期間5年以下です。
エネルギー削減量、投資額は概算値です。実施に当たっては貴施設で詳細検討を実施してください。

No	改善提案	原油換算		削減額	投資額	回収年
		削減量 [MJ]	削減率 [%]	[tPE]	[tPE]	[年]
1	ボイラのバーナ空気比低減による重油使用量の削減	13.5	0.5	944	—	—
2	ボイラ蒸気圧力低減によるA重油使用量の削減	—	—	—	—	—
3	空調機運転台数見直しによる電力量削減	1.5	0.2	94	—	—
4	エアコンプレッサの一部更新	25.7	4.8	1,930	3,000	1.6
5	温水タンク熱源を休日の乾燥用熱源に活用	10.8	2.0	750	300	0.4
6	ポンプのインバータによる回転数制御	—	—	—	100	1.7
7	蒸気配管、バルブの未保温部に保温材を施工	—	—	—	100	0.8
8	第2乾燥室の保温強化	1.4	0.3	95	300	3.2
9	工場2階の天井水銀灯の省光灯(LED)化	0.9	0.2	65	200	3.1
10	デマンド監視装置導入による契約電力低減	—	—	427	400	0.9
合 計		73.9	13.8	5,746	5,000	—

運用改善

投資改善

仕事の役割に応じて、知識を体系的に学ぶ

ESG・各種概要編

- ESG概要
入門・実践・経営編
- 生物多様性実践・TNFD研修
- サーキュラーエコノミー研修
- Well-being実践研修
- サステナビリティ経営実践
- SSBJ情報開示



ESG 経営実践編(各担当者)

Environment

環境経営入門編
環境マネジメントシステム 入門研修

環境経営実践編
ISO 14001要求事項解説

Social

人的資本マネジメント入門編
ISO 30414解説研修

人的資本マネジメント導入実践編
ISO 30414実践研修

労働安全衛生入門編
労働安全衛生マネジメントシステム 入門研修

労働安全衛生実践編
ISO 45001要求事項解説

人権 国際フレームワーク
人権デュー・ディリジェンス・ガイダンス

Governance

パーパス経営実践
PAS 808 研修

AIガバナンス体制構築 38の管理策
AIマネジメントシステム(AIMS) ISO42001

情報セキュリティ入門編
情報セキュリティマネジメント入門研修

情報セキュリティ実践編
ISO 27001要求事項解説

事業継続計画(BCP) 入門編
事業継続マネジメントシステム入門研修

事業継続計画(BCP) 実践編
事業継続計画策定&ビジネスインパクト分析

情報開示

GRIスタンダード2021に基づくレポート研修

立命館大学グリーンソーシャルイノベーター協同研究

立命館大学 永野ゼミの教育プログラムが学会に論文として掲載



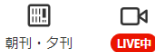
グリーンソーシャルイノベーションの人材育成プログラムに関する実証研究

～淡路島を事例として～

Empirical study on human resource development programmes for green social innovation
- a case study of Awaji Island

永野 聡 (立命館大学産業社会学部)
Satoshi Nagano (College of Social Sciences, Ritsumeikan University)

日本経済新聞



トップ 速報 オピニオン 経済 政治 ビジネス 金融 マーケット マネーのまなび テック 国際 スポーツ 社会

キャプラン、立命館大と「グリーンソーシャルイノベーター」の育成を目指し共同研究を開始

2022年10月12日 14:41



立命館大学の永野ゼミでは、人財育成プログラムを展開している。右側には、淡路島の自然環境を学ぶためのフィールドワークの様子が写っている。



淡路島の自然環境について研究するチームもある。右側には、淡路島の自然環境を学ぶためのフィールドワークの様子が写っている。

パソナ系で人材育成・研修事業を手掛けるキャプラン（東京・港）とはプログラムを通じ、学生がどれくらい成長したかを評価する共同研究も実施している。永野准教授は「グリーンソーシャルイノベーターの認定制度などもつくりたい」と話す。



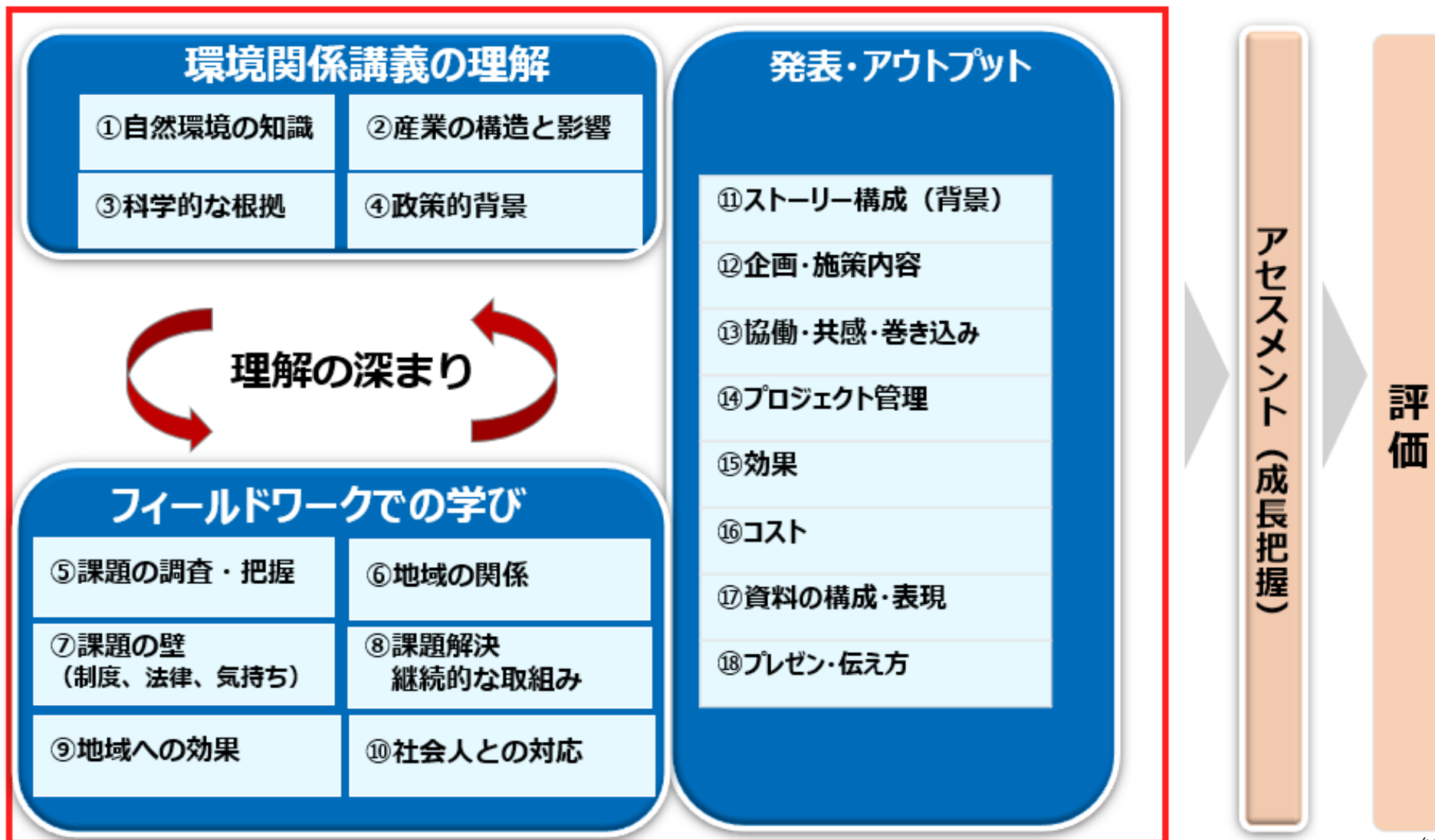
2022年10月12日
キャプラン株式会社
立命館大学

報道関係者 各位

産学連携で「グリーンソーシャルイノベーター」の育成を推進
キャプランと立命館大学 共同研究を開始

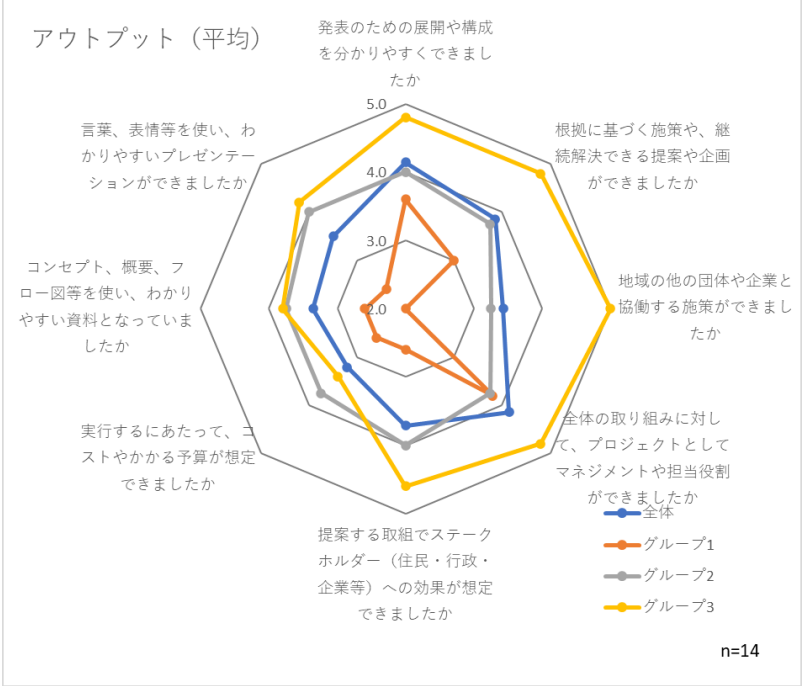
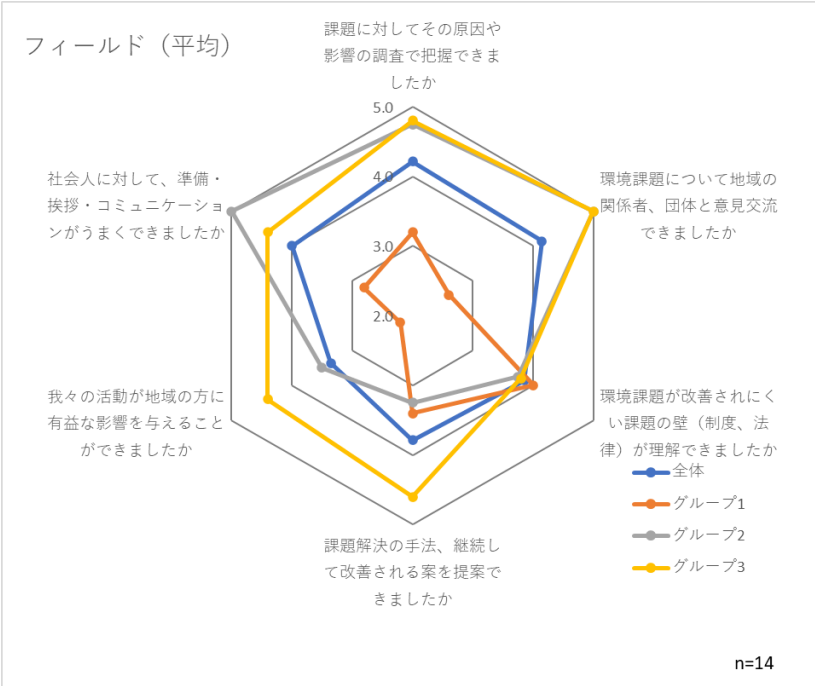
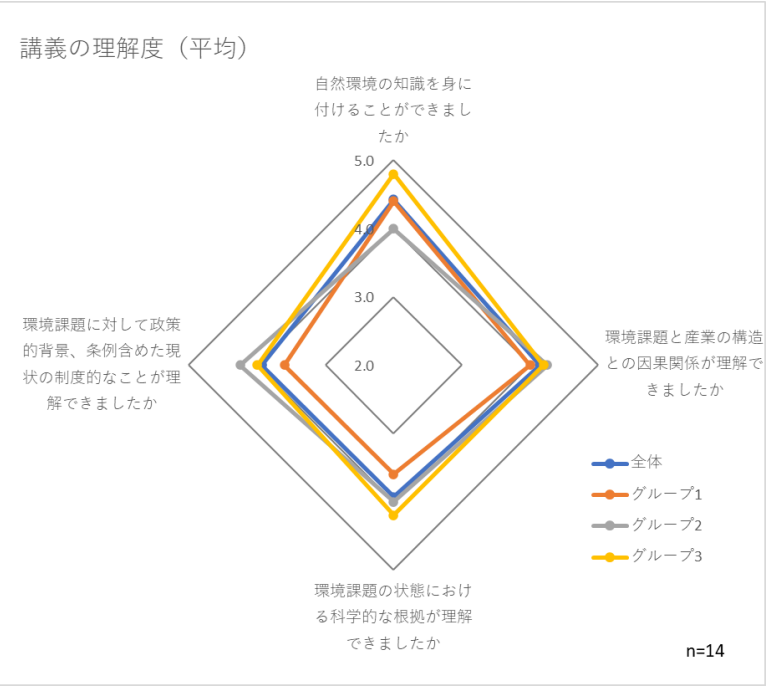
パソナグループのキャプラン株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：石田正則）と立命館大学産業社会学部 永野聡ゼミは、カーボンニュートラルと経済成長を両立させる地域社会のGX（グリーン・トランスフォーメーション）に向けて中核的な役割を担う「グリーンソーシャルイノベーター」の育成を目指し、共同研究を10月より開始いたします。

18のスキルを身に着け 成長を意識できるツール



【全体感】

- 講義の理解度 : 自然環境の知識については、身につけられたが、環境政策の背景、制度的な理解への講師側の改善は必要
- フォール度の理解度 : 活動が地域の方々に有益な影響を与えている時間が少ないことについては、各チーム、フィールドワーク前に十分議論する必要はある
課題解決の手法、継続して改善できることは、フィールド活動中に、当事者の方々との議論を深め、案を出し合う必要はあり。
- アウトプットの理解度 : 全体的に、地域団体との協働は、実際は時間的には難しいが、継続的な取組の要素をひとつでも作れるようにサポートできれば良い
活動が、ステークホルダーへのどのような効果を生むのか、実行するコストについても検討する時間をとることが必要
プレゼンの資料作り、わかりやすい資料づくりは、他のプレゼン資料の作り方を勉強することで、相手に伝わることを学ぶことも必要



■講義

- ・様々な業界の環境負荷低減の取組み
- ・地球温暖化・気候変動
- ・異常気象・気候難民・偏西風の蛇行
- ・京都の異常気象と自然災害
- ・温暖化の指摘の歴史
- ・降水量・空気の成分と化合物の特徴
- ・地球の歴史・人新世
- ・世界の脱炭素の取組み・IPCC
- ・生物多様性の維持・絶滅
- ・京都、立命館大学の生物多様性
- ・30By30、TNFD
- ・日本のエネルギー問題・自給率・安全保障
- ・6次、7次エネルギー計画
- ・日本の削減計画・家庭の排出量
- ・グリーン成長戦略・カーボンゼロシティ
- ・京都府・京都市の取組み
- ・日本の生物多様性・OECM
- ・コーポレートガバナンスコード
- ・GHG、Scope1, 2, 3
- ・市場の動き・ダイベストメント
- ・TCFD・CDP・SBT・RE100
- ・サプライチェーン全体での動き
- ・オフセット・Jクレジット
- ・立命館大学の取組み
- ・ESG背景・現状の動き
- ・日本・世界の
社会・ビジネスの業界別実例

■ディスカッション

- ・みなさんの好きなことを相手に共感してもらうために
- ・自然災害は何を引き起こすのか
- ・生活と生物多様性の繋がり
- ・生物多様性になにに取り組めるのか
- ・あなたのステークホルダーを考える
- ・エネルギー資源はいつまで？日本の輸入は
- ・あなたが日本の総理大臣、エネルギー政策は
- ・何年先を見るのか
- ・家で何に取り組めるのか

- グリーンソーシャルイノベーションを進める上で、どんな人や企業、団体と関わるのかということと、自分たちの計画はいつまでにどのくらい完了させるかということになるべく明確にすることの重要性に改めて気づくことができました。
- 世界には、環境問題に向き合い、解決に向けて取り組む企業を評価する基準がたくさんあるということと、環境問題に取り組むことが企業価値を上げるという考えが常識になっているとわかった。投資や購買活動等によって企業を応援し、お金が大きく巡る社会システムの構築は必須である。考える際のヒントを得ることができた。
- 企業的な目線でこのグリーンソーシャルについてお話ししてもらい新たな視点が増えた。私たちが学生ということもあり、企業的な視点で考える機会がない中非常に良い経験だった。将来就職をして企業の一員となる時がやってくるはずであるから、就職した際にもどのような形で世界の課題と向き合うことができるのかなど勉強になることが多かった。
- 再生可能エネルギーに切り替えればいいんだ！と口では簡単に言うが、現実的に考えてそんな簡単な問題ではないのが事実だと今回の講義を受けて思った。ワークの時間にもこの話がでてきて、みんな「再エネを取り入れる必要がある」と答えているのに、実際に取り入れているのはクラスで15人中2人程度だった。それをわかりやすく伝えていくことが重要だと感じた。
- 再生可能エネルギーの可能性やそれに対する私たちの行動により、未来が変わるという事実に気づきました。一人一人の意識が何よりも重要であり、その不況や継続が必要不可欠だと感じました。
- 最初のアイスブレイクで利害関係者のことを話し合ったときに、友達や家族などは身近すぎて深く考えたことはなかったが、自分にも相手にも大きく影響を与えている、受けていることを認識した。全体像をしっかりと見据えてステークホルダーとの関係整理、影響を考える必要があると思うことが出来た。また前回出ていた共感にも繋がる話ではあるが、地域でグリーンソーシャルに取り組む際にその地方に受け入れられるということは重要だと感じた。
- 限られた資源、低い自給率、多いエネルギー消費、多い人口、経済的発展、国際紛争、DX・AI活用、さまざまな課題がある中で、気候変動対策に関して「緩和と適応」の考え方がベター。ネイティブ・アメリカンの民族の考え方として紹介された「自然の資源は未来の子孫からの借り物」「どんなときも7世代あとのことを考えて決める」は現在でも必要な考え方だと思いました。

社会・企業で求められているスキルとの関連性

人生100年
時代の
社会人
基礎力

前に踏み出す力 (アクション)

～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



主体性

物事に進んで取り組む力

働きかけ力

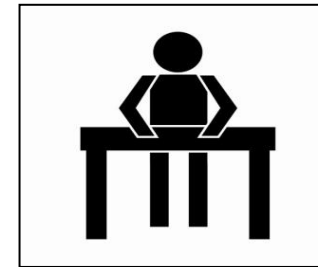
他人に働きかけ巻き込む力

実行力

目的を設定し確実に行動する力

考え抜く力 (シンキング)

～疑問を持ち、考え抜く力～



課題発見力

現状を分析し目的や課題を明らかにする力

計画力

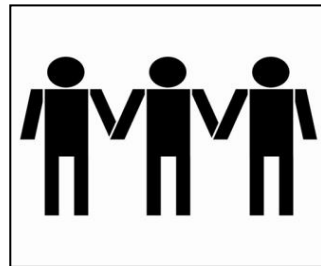
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力

創造力

新しい価値を生み出す力

チームで働く力 (チームワーク)

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～



発信力

自分の意見をわかりやすく伝える力

傾聴力

相手の意見を丁寧に聴く力

柔軟性

状況把握力

自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

規律性

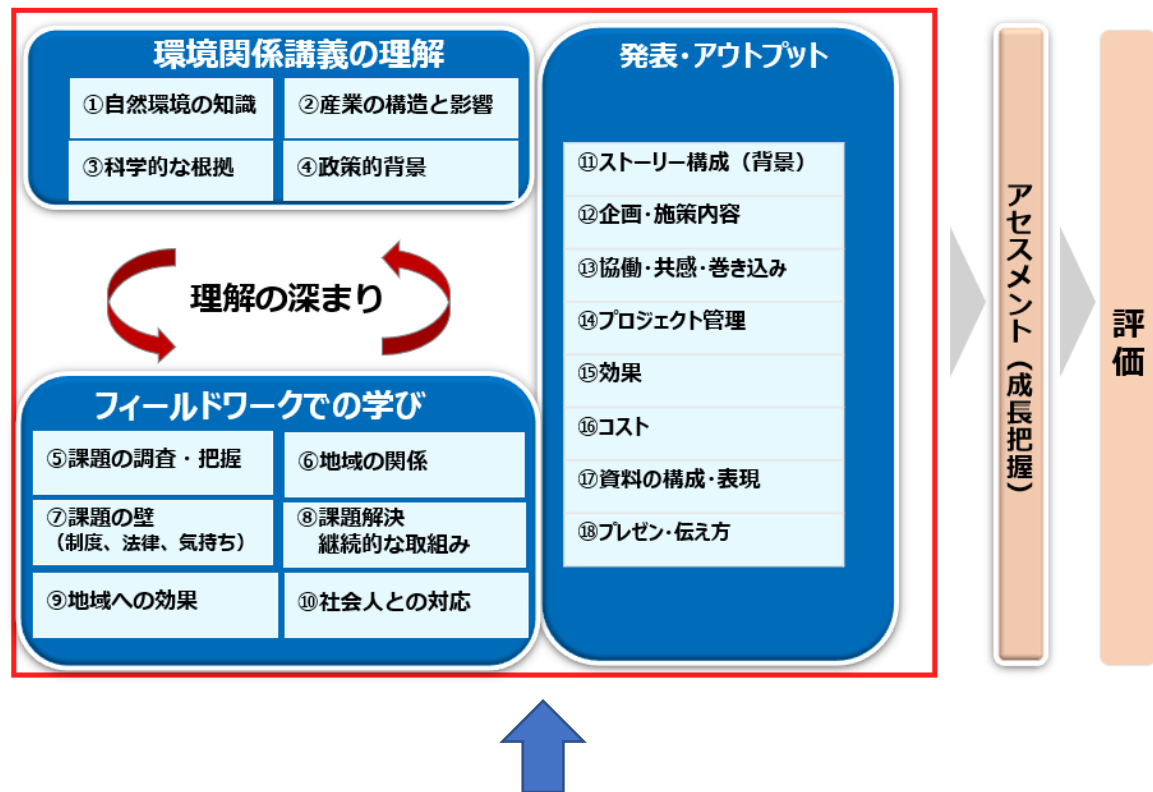
社会のルールや人との約束を守る力

ストレスコントロール力

ストレスの発生源に対応する力

経済産業省が主催した有識者会議により、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を

「社会人基礎力(=3つの能力・12の能力要素)」として定義。



社会人基礎力を関連づける

■環境関係講義の理解

- 考: 課題発見力・想像力
- チ: 発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力

■フィールドワークでの学び

- 前: 主体性・働きかけ力・実行力
- 考: 課題発見力・計画力・想像力
- チ: 発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力
規律性・ストレスコントロール力

■発表・アウトプット

- 前: 主体性・働きかけ力・実行力
- 考: 計画力・想像力
- チ: 発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力

前に踏み出す力

主体性
働きかけ力
実行力

考え抜く力

課題発見力
計画力
創造力

チームで働く力

発信力	状況把握力
傾聴力	規律性
柔軟性	ストレスコントロール力

LinkedIn 注目のスキル(赤い字はソフトスキルのうち、グリーンソーシャルイノベーター授業との関連) 2030年までに70%が変化する

LinkedIn データ 2025 (2024年前年比較の伸び:追加スキル・採用スキル・求人広告スキル)

出所 <https://www.linkedin.com/pulse/linkedin-skills-rise-2025-15-fastest-growing-us-linkedin-news-hy0le/>

1. **AI Literacy (AIリテラシー)**★授業では使っていない、学生の利用は不明
2. **Conflict Mitigation (コンフリクトの緩和)**
3. **Adaptability(適応力)**
4. **Process Optimization(プロセスの最適化)**
★効率用プロセスの検討はないが、計画面と実行面では検討の可能性あり
5. **Innovative Thinking (イノベーションシンキング)**
6. **Public Speaking(パブリックスピーキング)**
7. **Solution-Based Selling(ソリューションベースドセリング 課題解決型)**
8. **Customer Engagement & Support(カスタマーエンゲージメントサポート)**
9. **Stakeholder Management (ステークホルダーマネジメント)**
10. **Large Language Model (LLM) Development & Application**
(大規模言語モデル(LLM)の開発と応用)
11. **Budget & Resource Management (予算・資源管理)**
12. **Go-to-Market (GTM) Strategy (Go-to-Market(GTM)戦略)**
13. **Regulatory Compliance(規制コンプライアンス)**
14. **Growth Strategy(成長戦略)**
15. **Risk Assessment (リスクアセスメント)**

(★グリーンソーシャルイノベーターで一部実行しているが、充分なのか？)

1. 理論と議論と実践のバランス

- ・理論学習(座学・整理・体系・理論的に学ぶ)★体系的に伝えられたか？
- ・実践演習(企画する・グループディスカッション・実践)★企画の時間・ディスカッションが十分な時間あったのか？

2. 実践の場、予測・実行・評価・課題・行動の継続性

- ・実践機会(実践する機会・成果や課題を共有・議論)★実践機会の量、個別の差がある
- ・フォローアップ(スキル・理解の定着の確認・新たな課題への取組み・ピアラーニング)

3. 測定可能な目標設定と効果測定

- ・可視化(目標・KPIの設定・効果測定)★課題の発見の遅れは、目標設定が贈れる、アクションの遅れ

4. 個別の評価・フィードバック・アドバイス

- ・自己・客観的な評価(自身の強み・課題の認識・フィードバック)★自己評価のみ・フィードバックは充分か？
- ・アドバイス(個別アドバイス・助言・再考の機会)

5. 講師の質と改善

- ・講師のスキル(実践経験・ファシリテーション能力・受講者への共感)★タイムリーな講師評価はできるのか？改善できたのか？

企業からみたソフトスキル・PBL研修の評価と位置づけ

- ・企業の研修における、PBLを意識した実践型研修は、主体的に考えることで物事の背景・理解が深まり、実践スキルを身に着けることで、アクションの推進ができる経験や力が身につく。
- ・顕在化していないリスクやコントロールできない変化であっても、状況把握力と柔軟性であきらめず前に進める力が身につく

位置づけ→ 研修において、身に着ける観点からも、企業側として受講者の成長を確認できるので、とても重要。どの学習段階であっても量をできる限り確保できたらよい。

※4, 評価・フィードバック、講師の質の改善はまだまだ課題

- ・知識とプロジェクトの実現(ビジネス)への実行力
脱炭素経営、循環経済、ESG投資などの専門知識と、プロジェクトに落とし込み進める実行力
 - ・課題を発見し整理し、主体的に行動できる力
講義とフィールドワークと調査より課題を発見でき、実行できることを整理し計画できる
 - ・データ分析能力とデジタルリテラシー
データを収集・分析し、根拠に基づいた意思決定能力
 - ・規制・トレンドへの感度と学習意欲(個人差あり)
国内外の環境方向性、最新の動向のキャッチアップ、自己学習を継続する意欲
 - ・プロジェクト推進力とリーダーシップ(個人差あり)
内外の関係者を巻き込む推進力
 - ・文化の理解(個人差あり)
多様な文化背景を持つ人々との議論・理解・調整・共感
- * 成果の表現
- ・「〇〇プロジェクトで、〇〇という課題に対し、〇〇の解決策を提案し、〇〇のような成果を上げました」明確に説明できる
 - ・「なぜ〇〇分野に貢献したいのか」と、背景と動機から行動理由を説明できる

社会人基礎力を関連づける

■環境関係講義の理解

- 考:課題発見力・想像力
- チ:発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力

■フィールドワークでの学び

- 前:主体性・働きかけ力・実行力
- 考:課題発見力・計画力・想像力
- チ:発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力
規律性・ストレスコントロール力

■発表・アウトプット

- 前:主体性・働きかけ力・実行力
- 考:計画力・想像力
- チ:発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力

株式会社パソナ サステナビリティ

〒107-0062
東京都港区南青山3-1-30
PASONA SQUARE

